

文部科学省 私立大学研究ブランディング事業
**高度なロジスティクス実現に向けての
研究拠点形成と人材育成**
—ロジスティクス・イノベーション・プロジェクト—
2020年度報告

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
「Private University Research Branding Project」
Logistics Innovation project
2020 Activities Report

I. 事業概要

本学は、「流通経済一般に関する研究と教育を振興する」という建学の精神のもと、体制を整備し、「物流、ロジスティクスは流通経済大学」という評価を既に得ている。これをさらに推し進め、ロジスティクスに関する研究拠点を形成し、人材を育成する。また、ロジスティクスの重要性を社会に発信し、超スマート社会に欠かせない、ロジスティクス・イノベーションをけん引する「ロジスティクスの未来をつくる大学」のブランドを確立する。

II. 事業目的

・日本政府が目指す「Society5.0」、すなわち超スマート社会とは、「必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細かに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられる・・・社会」と定義され、ロジスティクスが目指すところと同じである。しかしながら現在、物流、ロジスティ

クス分野においては、人手不足に端を発した物流危機に直面し、従来のシステムでは立ちいかなくなっており、抜本的な改革が要請されている。

- ・一方、新技術(IoT、AI、ロボットなど)の進展は、ロジスティクスを今後大きく変革していくことが予想され、ロジスティクスは大きな転換期を迎えている。
- ・国土交通省による「総合物流施策大綱(2017～2020年度)」においては、「①今後の社会構造の変化やニーズの変化に的確に対応するとともに、②人材や設備等の資源を最大限活用してムダのない構造を構築し、③第4次産業革命への対応も含め「高い付加価値を生み出す物流」へと変革することが必要である。」としている。高度なロジスティクスを実現するためには、ロジスティクス・イノベーションが欠かせず、その実現を支える研究拠点の形成と高度なロジスティクス人材の育成が欠かせない。
- ・本学は、「流通経済一般に関する研究と教育を振興する」という建学の精神のもとに発展してきた。

さらに、日本で唯一といえるロジスティクスを柱とした学部を持ち、これまでも、物流、ロジスティクス研究の発展、日本の物流政策の発展、物流人材の育成の中核として寄与し、「物流、ロジスティクスは流通経済大学」という一定の評価を得てきた。本事業では、これをさらに推し進め、高度なロジスティクスの基盤となる、研究拠点の形成、高度な人材の育成を図っていく。経済、産業、生活に欠かせないロジスティクスの重要性を広く社会に発信し、位置づけを高めると同時に、超スマート社会に欠かせない、ロジスティクス・イノベーションを、企業、業界団体、政府等とともに、けん引し、「ロジスティクスの未来をつくる大学」として、ブランドを確立する。

Ⅲ. 2020年度の実施目標及び実施計画

1. 研究拠点における目標

各テーマにおける具体的内容の検討とステークホルダーへの発信

2. 人材育成における目標

産学連携科目の継続と小中高校生等向けのロジスティクス教育教材の開発に関する検討

3. ブランディング戦略の目標

本事業の認知度、イメージ向上に向けてのブランディング戦略の実施

Ⅳ. 2020年度の事業成果

1. 研究拠点における事業成果

①社会システムとロジスティクスの研究拠点
関連

・第4次産業革命、「Society 5.0」の進展が

ロジスティクス、サプライチェーンにどのような影響をもたらすのか、近年の新技术（IoT、AI、ロボットなど）の進展状況を踏まえた、ロジスティクスにもたらす影響についての検討を行った。さらに、新技术の導入、サプライチェーン全体での全体最適化を図る上での、標準化、情報の電子化といった課題について検討した。

・ロジスティクス変革が経済、産業全体に与える影響、中長期的なロジスティクス・イノベーションのロードマップ、社会が求める新たなロジスティクス像について検討した。

・「アジアシームレス物流フォーラム2020」において、大学協賛のもと、ロジスティクス2030—社会システムの変革とロジスティクス・イノベーション—についてパネルディスカッションを実施した。オンデマンド配信で700名の聴講。

・「ロジスティクス×社会システム研究会」を2021年3月より立ち上げ、定期的を開催した。オンデマンドで配信。ロジスティクス分野に限らず、様々な分野の講師を招き、今後の社会システム変革の動向について議論しながら、中長期的なロジスティクス改革の方向性、ロジスティクス・イノベーションのロードマップ作成のための検討をした。本研究会は2021年度以降も、年4、5回開催予定。

・新型コロナウイルス感染拡大は、経済、社会構造の変化をもたらし、物流にも大きな影響を与えている。

ネット通販の拡大などの物流需要の変化と同時に、非接触物流など新しい物流システムが求められている。「新型コロナウイルスが物流を変える」というテーマで、座談会を開催し、オンデマンド配信で250名が聴講。2020年11月に発行した研究報告書「物流問題研究」において、特集テーマを「新型コロナウイルスが物流を変える」として、検討内容を公表した。さらに「新型コロナウイルスが家電の生産・物流・消費に与えた影響」として大学ホームページに連載。2021年2月12日発行の日経新聞「経済教室」において、「コロナ下の物流危機」として一部内容を掲載。

- ・大規模震災発生時の官民連携、企業間連携の必要性についての提示と連携の進め方についてとりまとめた。「災害発生時、物流はどのように対応するか」をテーマに2021年3月5日にシンポジウムを実施した。オンデマンド配信をし、313名が聴講した。2021年3月に発行した研究報告書「物流問題研究」において、特集テーマを「災害発生時、物流はどのように対応するか」として、検討内容を公表した。
- ・東京2020に向けて、河川交通を利用した大会物流の可能性を検討するべく、実証実験を実施した。

②地域とロジスティクスの研究拠点関連

- ・地域とロジスティクスについては、過疎地を中心として、持続的な物流サービス提供が困難となっているなか、従来の物流事業者によるサービス提供だけでな

く、自家用貨物車、タクシー、鉄道といった幅広い輸送資源の活用可能性について検討した。

- ・ドライバー不足、運賃高騰などにより、中長距離を中心として農産品を出荷できない状況が発生している。農産品物流の今後のあり方について、農産品卸会社と共同研究を実施した。

2. 人材育成における事業成果

- ・産学連携科目の取り組みとして、2018年度から新規開講したIoT、AI、ロボットなどの進展という視点からの「IoTロジスティクス実践講座」、地域におけるロジスティクスの重要性に対応した「地域ロジスティクス実践講座」を継続して開講した。また、「物流マネジメント実践講座」、「国際物流実践講座」、「情報システム実践講座」、「ダイレクトマーケティング実践講座」、「ロジスティクス改善演習」についても継続開講した。「ロジスティクス企業訪問講座」については、新型コロナの影響で本年度は非開講とした。
- ・各講座は物流関連団体や荷主企業、物流事業者などから実務者や経営者ら総勢89名を講師に招いて実施し、2020年度は春・秋学期あわせて延べ527名が受講した。受講者には自由意見を含むアンケート調査を行い、学生の実践講座に対する意識、評価を確認すると同時に、その結果を踏まえて次年度の講座計画に活かせるようにした。
- ・産学連携によるケースメソッド型の新たな

な科目「プロジェクト学習－ロジスティクス」を2020年度から開講した。「千葉県産品を輸出する」というテーマのもと、商品の設定、輸出先、物流関連の留意点、市場ルートの展開等について、グループワークで学生が具体的に検討するというものである。授業実施に当たってはJETROと連携し、進めた。なお、2020年度は新型コロナの影響で、グループワークの実施が難しく、学生の個別発表となった。

- ・高校生向けの動画によるオンライン・コンテンツの配信を開始した。ロジスティクス、情報、マーケティング等の広いテーマについて、高校生が興味を持つように10分程度の動画にまとめて、配信。現在、大学のホームページを通じて本配信。
 - ・小学生に物流、ロジスティクスをわかりやすく説明し、興味を持ってもらうため、「暮らしと社会を支える物流」というテーマで編集し、毎日新聞出版【Newsがわかる】2021年3月号に掲載。発行部数は7万部。
 - ・高度物流人材に向けての課題、今後の方向性について、国土交通省物流政策課、国土交通政策研究所と連携して、調査研究を実施した。高度物流人材関連の本学教員インタビューが物流関連の専門紙に掲載された。本学のロジスティクス教育の概要について、物流関連の専門誌に掲載予定。
3. ブランディング戦略の事業成果
- ・本研究ブランディング事業を紹介する

リーフレット（フライヤー）の配布、各種メディアなどにより物流業界や地域における事業の認知度アップに努めた。

- ・本研究ブランディング事業の専用ホームページ「Logistics Innovation Project」を運用し、さらにSNSも活用して本事業の事業内容等の情報発信をした。
- ・2021年3月5日に実施したシンポジウムでは、業界団体の協賛を得て、事前のプレスリリースを行うなどの準備をした。
- ・研究報告書「物流問題研究」を冊子体で発行し、またWebでも公開した。秋号の特集は「新型コロナウイルスが物流を変える」、春号の特集は「災害発生時、物流はどのように対応するか」をテーマとした。
- ・テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネット等の各種メディアにおいて、本研究ブランディング事業メンバーの物流、ロジスティクスに関する研究内容、コメントが多数取り上げられた。特に、新型コロナウイルス感染拡大のなか、物流の重要性について、社会における認識の高まりに貢献したと考えられる。
- ・本研究ブランディング事業の中核となる流通情報学部の2021年度入試の志願者数が増加した。

V. 2020年度の自己点検・評価及び外部評価の結果

1. 自己点検・評価

- ・研究拠点における事業については、2018年度における学内での検討、2019年度における産学連携によるWGにおける検討

に引き続いて、2020年度は研究会の立ち上げ、具体的プロジェクト実施に向けての検討を行った。各種新技術（IoT、AI、ロボットなど）の進展が、ロジスティクスにどのような変革をもたらすことが予想されるかについての検討をするのと同時に、新技術導入に当たっての、標準化、情報連携等の課題を中心に検討した。

- ・地域とロジスティクスについては、過疎地を中心とした持続的な物流サービス提供の可能性についての検討を進めた。また、農産品物流のあり方について検討し、今後のプロジェクト実施については課題となっている。
- ・高度なロジスティクス人材の育成においては、従来から実施している産学連携プログラムを引き続き実施し、加えて時代の要請に応える新たな産学連携科目を開講し、学生からも高い評価を得た。さらに外部、学生による評価を実施し内容の改善に努めることができた。また、産学連携によるケースメソッド型の新たな科目「プロジェクト学習」の2020年度から開講した。小学生向け教育材料を作成し、今後の更なる展開が重要である。
- ・ブランディング戦略の実施状況については、定期的なシンポジウム開催によるプロモーションは有効である。多くの参加者が集まると同時に、マスコミ等でも紹介され、一定の成果が得られた。定期的な研究会の開催により、新たな視点からのロジスティクスのあり方の検討がなされた。

- ・新型コロナなど、最新テーマに関連した研究成果の社会展開により、ロジスティクスの重要性についての発信にも努めた。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネット等の各種メディアにおいて、本研究ブランディング事業メンバーの物流、ロジスティクスに関する研究内容が取り上げられる機会が非常に増え、成果が得られた。本研究ブランディング事業の中核となる流通情報学部の2021年度入試の志願者数が増加しており、本事業が学生募集にも繋がるよう今後も努めたい。

2. 外部評価

2021年5月24日、外部評価委員会における主な意見（コロナ禍のため書面審査）

- ・「新型コロナ」、「災害発生時」という物流が直面した課題について、シンポジウムや研究会などにおいてWebを活用し、かつ頻度を上げて発信したことを評価したい。
- ・小学生、高校生向けにロジスティクス関連教材の提供を始めたことは高く評価でき、今後も関心を高める教育教材、教育プログラムの開発など対象を広げていくことが望まれる。
- ・研究会など、対外的な情報発信の具体的な進展により、各種メディアにも取り上げられるなど一定の成果が表れ、何より2021年度の入試志願者の増加が、大学のブランド価値の向上結果とみられる。

VI. 2020年度の補助金の使用状況

2020年度補助金は、都度学内の承認（決裁）を受け、計画に基づき適正に執行した。

- ・コンソーシアム、WG研究会、シンポジウム開催、外部評価委員会の開催に係る支出
- ・調査研究に係る支出
- ・研究報告書の作成及び発送に係る支出
- ・専用ホームページの運用に係る支出
- ・ロジスティクス・イノベーション推進センター研究員の人件費に係る支出